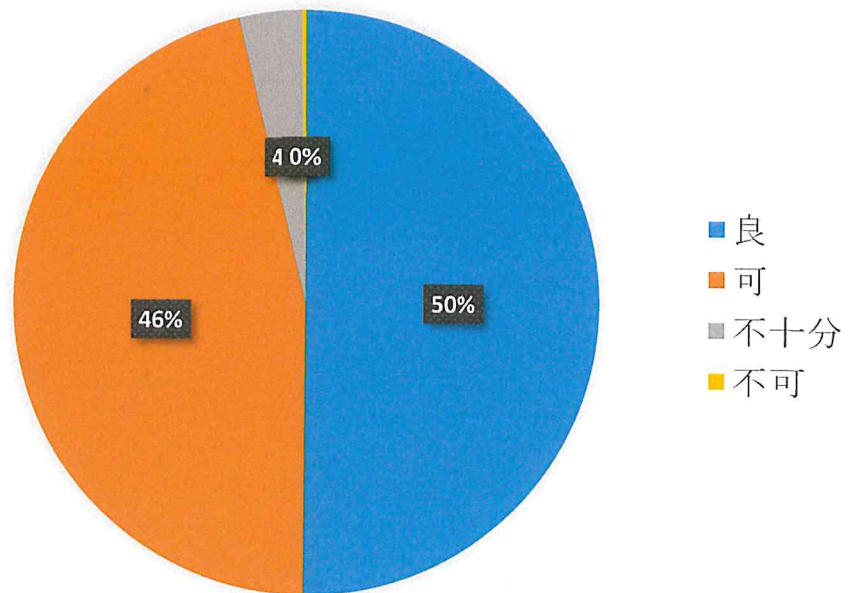


個人アンケート集計に基づいた総合評価(1/3) (令和元年度分)

平成30年度の活動状況の評価を各保育士にアンケート形式で行っていただきました。
(集計結果を下記及び次頁に示す)

全体の評価



(普段の生活と保育を振り返り、自分なりの評価を4段階に分けて行った)

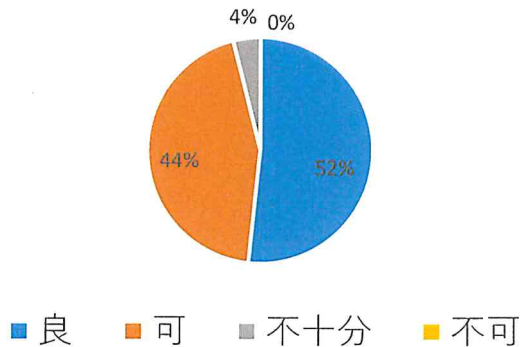
アンケート集計結果及び園管理者の対策

- ・50%の保育士が「良い」と評価している
⇒保育士それぞれが良いと評価しているところに関しては、現状維持に満足せず次年度は、更によくするように声かけをする。
- ・46%の保育士が「可」と評価している
⇒個々の理想には足りないが、全体的には足りてると判断している。
理想に足りない原因を考え、それを取り除くかどうかを判断すること。
- ・4%の保育士が「不十分」と評価している
⇒理想及び全体的に足りないと判断している。
足りない原因を考え、園内研修や足りないと思っているところの外部研修を受講させて本人と可になるようにはどうするかを一緒になって考えて次年度は少しずつ改善する必要がある。
- ・0%の保育士が「不可」と評価している。
⇒大きな問題の可能性はある。個人もしくは園全体に原因がある。
評価者と早急に面談をし、問題点に対して、確実に、早急に行動を起こすこと。

※全体の評価は各項目の評価をまとめたものであり、詳細は次頁以降参照願います。

個人アンケート集計に基づいた総合評価(2/2) (令和元年度分)

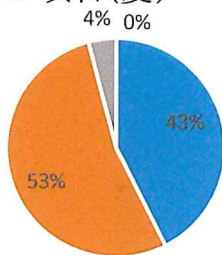
生活の項目(自他の幸福と保育目標の実現)



【評価・反省】

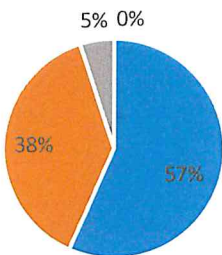
・生活の項目に関しては、良が52%,可が41%と合計が93%で不十分と不可の合計が8%という結果となった。開園して2年目。まだまだ職員も忙しく、ゆとりがなかったように感じる。次年度は職員も採用し、もう少しゆとりをもった保育を行い、私生活もリフレッシュできるような環境を整えたい。

保育の項目(愛)



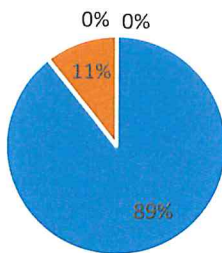
・保育の項目について、良が43%,可も53%と合計が96%で不十分と不可の合計が8%という結果となった。
・園児に対する適切なしつけ方や叱り方の項目については43%の職員が不十分と答えていたので、次年度は適切な対応がしっかりとれるよう、研修を重ねていきたい。

社会性の項目(協調・協働)



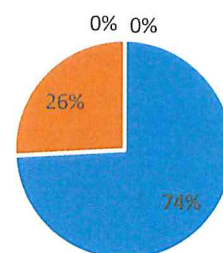
・社会性の項目について、良が57%,可も38%と合計が95%で不十分と不可が合計で5%という結果となった。職員同士が協力し合い、保護者や地域と連携を密にした保育を育てよう、引き続き努力していきたい。

0歳児クラス 保育士の項目



・0歳児クラスの保育士の項目については、良が89%,可が11%で合計が100%と高い結果となった。不十分、可はなし。
・不十分となった項目は、「大好き言葉かけを数多く一人ひとりに実践している」「保護者にも大好き言葉かけの大切さの重要性をつたえ実践してもらっている」という項目であった。次年度は、保育士・保護者ともに、園児への言葉かけの大切さを伝えていきたい。

1～2歳児クラス 保育士の項目

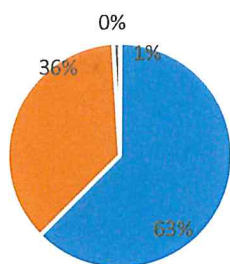


・1～2歳児クラスの保育士の項目について、良・可の合計が74%で不十分が26%という結果となった。
・不十分となった項目は、0歳児クラスと同様に「大好き言葉かけの実践(保護者に向けて)」や「探索活動が十分に行えるような環境を整備しながら関わっている」であった。語彙も増え、色々な事に興味を示す時期であるため、次年度は子供たちがより多くのことに興味を持てるよう、気持ちを尊重しながら環境を整備していきたい。

個人アンケート集計に基づいた総合評価(3/3) (令和元年度分)

3～5歳児クラス 保育士の項目

【評価・反省】



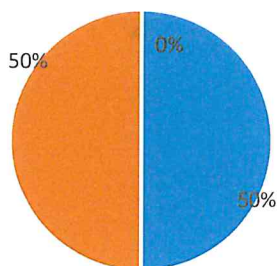
■ 良 ■ 可 ■ 不十分 ■ 不可

・3～5歳児クラスの保育士の項目については、良が63%、可が36%と合計が99%で、不十分と不可の合計が1%という結果となった。

・不十分となった項目には、「保護者にも大好きな言葉かけの重要性を伝え実践してもらっている」「子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して関わっている」という項目などであった。自分で出来ることがどんどん多くなる時期の子どもたちに対して、次年度はその気持ちに寄り添い自己肯定感や達成感を持ってせられるような保育を意識して実践していきたい。

管理責任者(園長・主任・副主任)の項目

【評価・反省】



・管理責任者の項目については、良が50%、可が50%と合計が100%で、不十分と不可の合計が0%という結果となり、良の評価が一番低い結果となった。

・職員一人ひとりを理解しうまくリード・育成し、園の運営がスムーズになされるよう組織体制を整えるとともに、今後は利用者や地域の具体的な福祉・子育てニーズについても、把握するための取り組みを行っていき、広い視野を持って保育を進めていきたい。